

資料 2

岡山県がん対策推進計画の進捗状況

平成 23 年 11 月

目 次

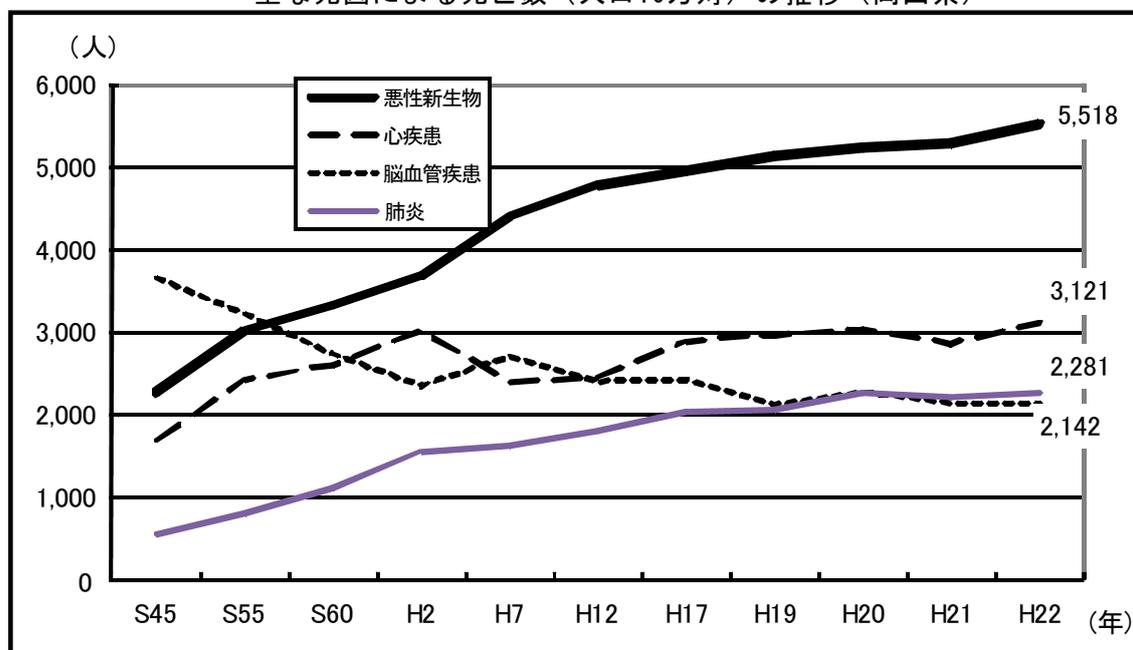
1	岡山県のがんの現状	1
2	全体目標の進捗状況	5
3	分野別施策の進捗状況	
	(1) がんの予防	7
	(2) がんの早期発見	11
	(3) がんの診断・治療に関する医療水準の向上	15
	(4) 患者・家族への支援	28
	(5) 研究	31
4	岡山県がん対策推進協議会	32

1 岡山県のがんの現状

(1) 死亡数の推移

がんによる死亡数は増加傾向にあり、昭和57年以降、岡山県での死亡原因の第一位となっている。

主な死因による死亡数（人口10万対）の推移（岡山県）

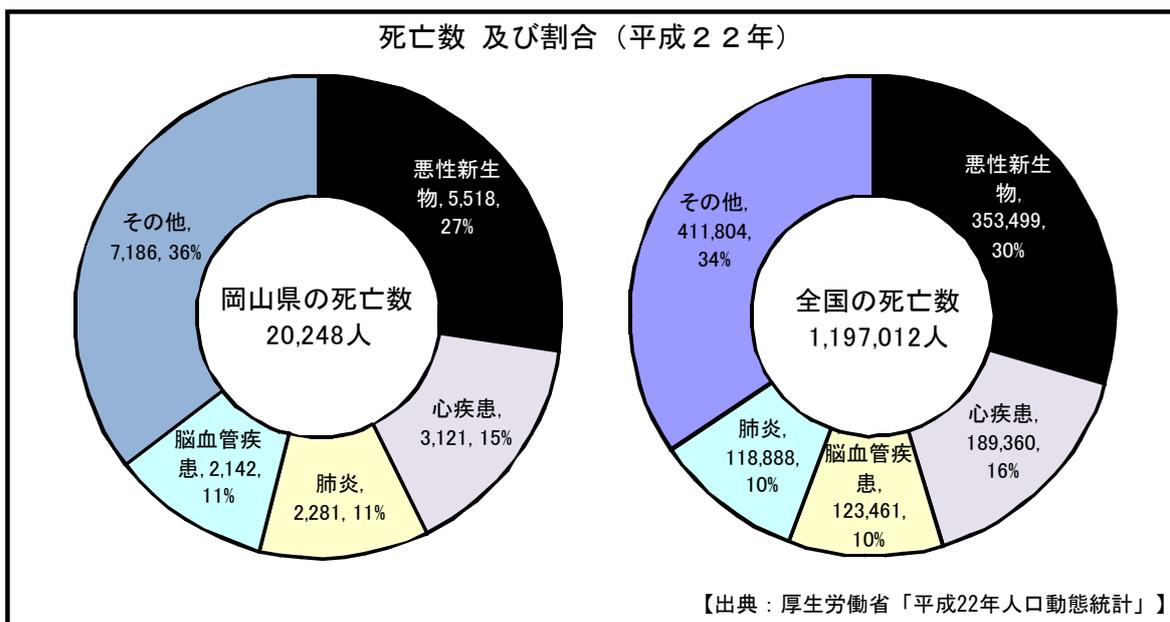


資料：厚生労働省「人口動態統計」

(2) がんによる死亡の現状

岡山県では、平成22年のがんによる死亡者は、5,518人で、全死亡数の約27%を占めている。

死亡数及び割合（平成22年）

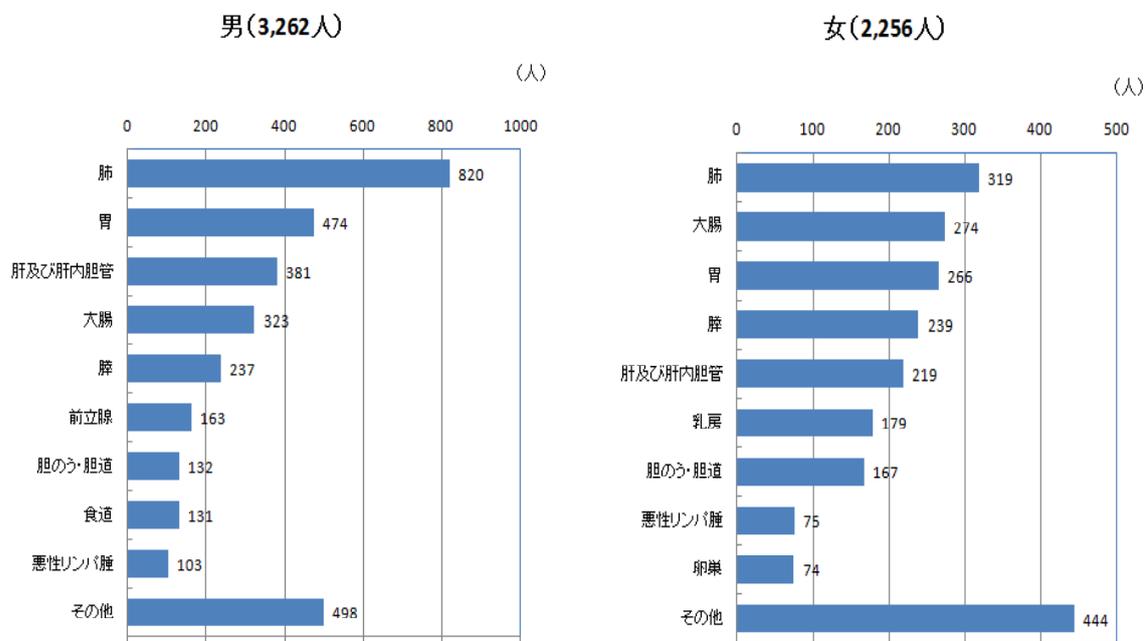


【出典：厚生労働省「平成22年人口動態統計」】

(3) 部位別死亡

がんの死亡数を部位別にみると、男性は、肺がんが最も多く、胃がん、肝臓がんが続いて多く、女性も、肺がんが最も多く、大腸がん、胃がんの順となっている。

がんの死亡数（人）：主要10部位別、性別〔平成22年・岡山県〕

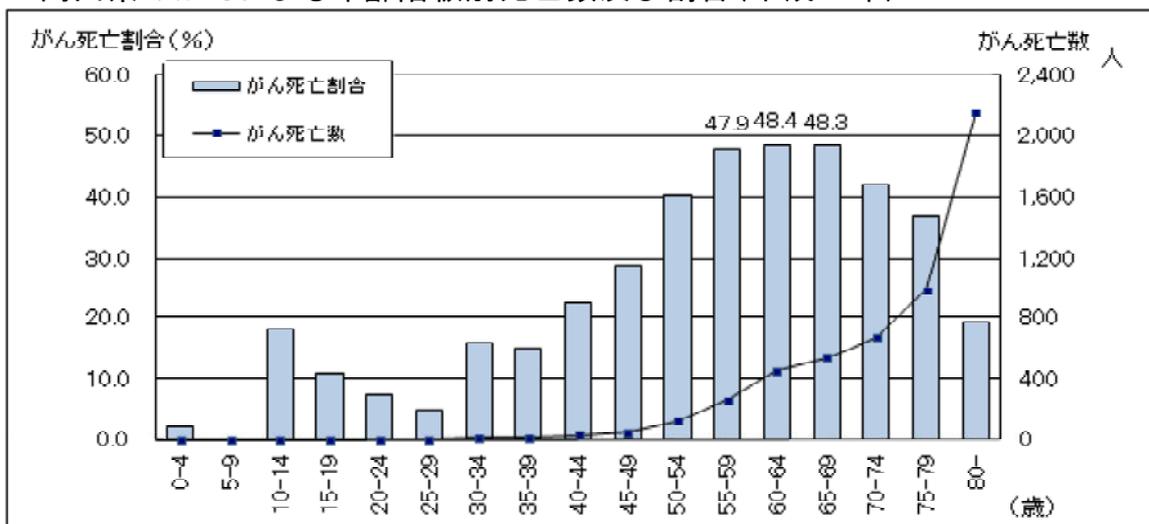


資料：平成22年人口動態統計

(4) がんによる年齢階級別死亡数及び割合

がんによる死亡数は、年齢が高くなるほど多く、全死亡に占めるがんによる死亡割合は、55歳から69歳までの年齢階級に多い。

岡山県のがんによる年齢階級別死亡数及び割合(平成21年)

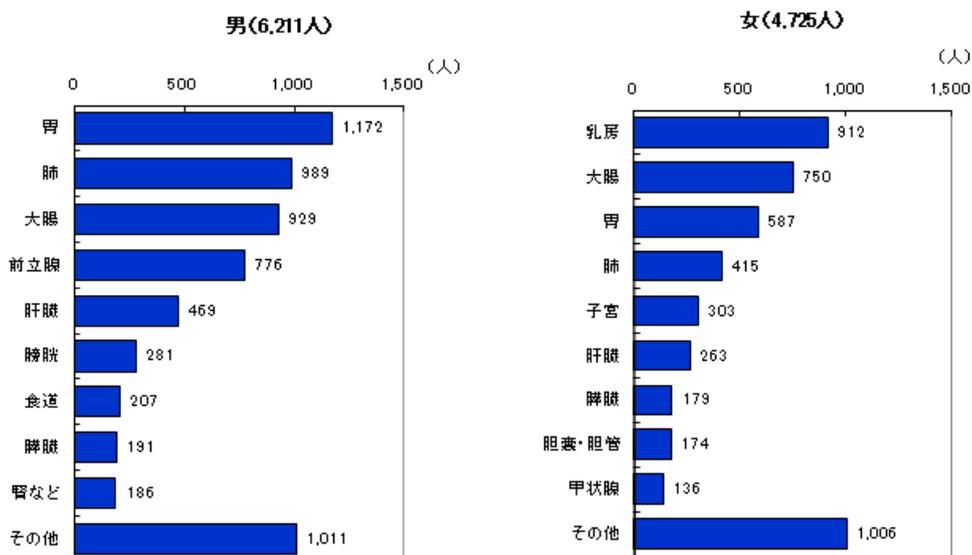


資料：厚生労働省「平成21年人口動態統計」

(5) 部位別罹患の状況

がんの罹患数を部位別にみると、男性では胃がんが最も多く、次いで肺がん、大腸がんの順となっている。女性では乳がんが最も多く、次いで大腸がん、胃がんの順となっている。

がんの罹患数（人）：主要10部位別、性別〔平成19年・岡山県〕

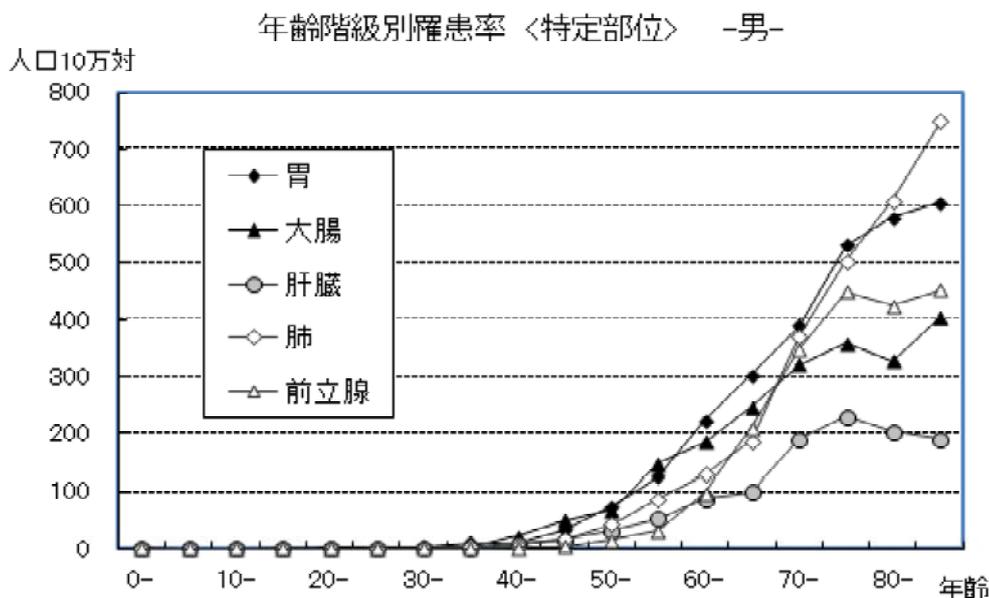


資料：岡山県におけるがん登録 2007

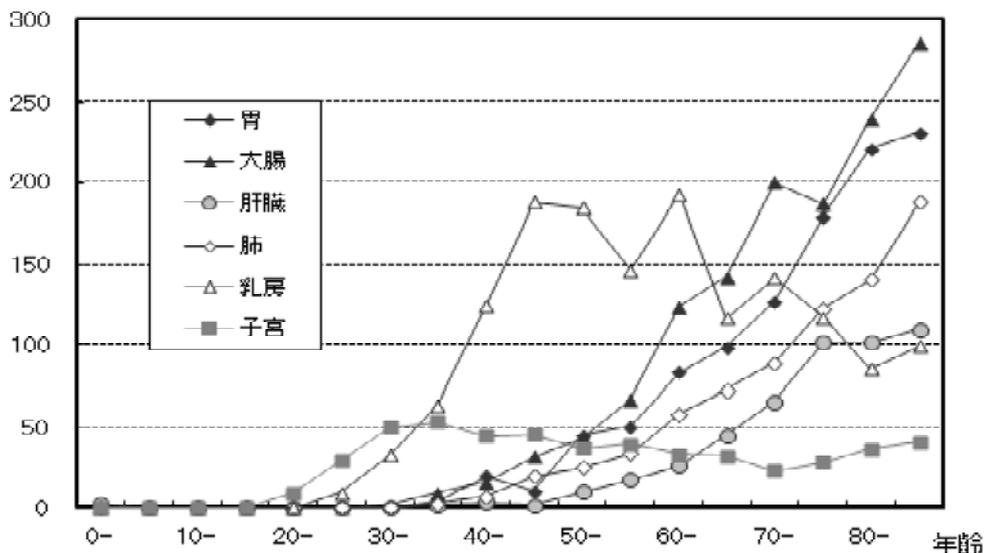
(6) 年齢階級別の罹患状況

がんの罹患を年齢階級別にみると、男性は、肺がん、胃がんなど年齢が上がるにつれて罹患率が高くなる傾向である。女性は、がんにより年齢階級の罹患率が異なり、乳がんは40歳代から60歳代で罹患率が高く、子宮がんは20歳から罹患がみられ、年齢階級の差が少ない。

特定部位の年齢階級別罹患率〔平成19年・岡山県〕



人口10万対 年齢階級別罹患率〈特定部位〉 女



資料：岡山県におけるがん登録 2007

(参考)

平成 21 年保健医療圏別人口構成

(平成21年10月1日現在)

	総数	0歳~14歳 年少人口		15歳~64歳 生産年齢人口		65歳以上 老年人口	
		人口(人)	構成比(%)	人口(人)	構成比(%)	人口(人)	構成比(%)
県南東部保健医療圏	917,140	126,183	13.8	573,112	62.5	212,852	23.2
県南西部保健医療圏	713,386	102,093	14.3	435,604	61.1	171,127	24.0
高梁・新見保健医療圏	70,838	7,554	10.7	38,203	53.9	24,543	34.6
真庭保健医療圏	50,242	6,380	12.7	26,934	53.6	16,953	33.7
津山・英田保健医療圏	192,049	25,773	13.4	110,357	57.5	55,905	29.1
合計	1,943,655	267,983	13.8	1,184,210	60.9	481,380	24.8
全国	127,510,000	17,011,000	13.3	81,493,000	63.9	29,005,000	22.7

(資料:岡山県統計調査課「岡山県毎月流動人口調査」、総務省統計局「人口推計」)

(注)年齢「不詳」を含んでいるため、総数は年齢別人口の計とは合致しない。

2 計画の全体目標の進捗状況について

全体目標1 がんによる死亡の減少

予防、検診、治療、研究など、多分野にわたる施策の総合的な推進によって、がんによる死亡の減少を目指す。

75歳未満の年齢調整死亡率（人口10万対）：現状（平成18年）の83.1を今後10年間で20%減少させ、66.5にする。

（進捗状況）

計画策定時に用いた平成18年のがん年齢調整死亡率（75歳未満男女計）は、83.1で、これを基準値(100%)とすると、平成21年の75.7は91.1%に値し、4年間で8.9%の減少となった。

性別に見ると、男性では、平成18年の112.7を基準値(100%)とすると、平成21年の99.1は87.9%に値し、12.1%減少した。一方女性では、平成18年の55.9を基準値(100%)とすると、平成21年の54.1は96.8%に値し、3.2%減少した。

がん年齢調整死亡率(75歳未満)の推移

年		平成18年	平成19年	平成20年	平成21年
男女計	全国	90.0	88.5	87.2	84.4
	岡山 全国順位	83.1 9位	78.6 3位	78.4 5位	75.7 7位
男	全国	118.3	116.4	114.0	109.8
	岡山 全国順位	112.7 12位	106.0 8位	102.8 5位	99.1 4位
女	全国	64.3	63.2	62.9	61.3
	岡山 全国順位	55.9 4位	53.5 1位	56.2 7位	54.1 6位

がん年齢調整死亡率(75歳未満)の平成18年から平成21年の変化

	岡山県			全国		
	男女計	男	女	男女計	男	女
平成18年	100%	100%	100%	100%	100%	100%
平成21年	91.1%	87.9%	96.8%	93.8%	92.8%	95.3%
4年間の変化	8.9%減少	12.1%減少	3.2%減少	6.2%減少	7.2%減少	4.7%減少
1年間あたりの変化	2.2%減少	3.0%減少	0.8%減少	1.6%減少	1.8%減少	1.2%減少

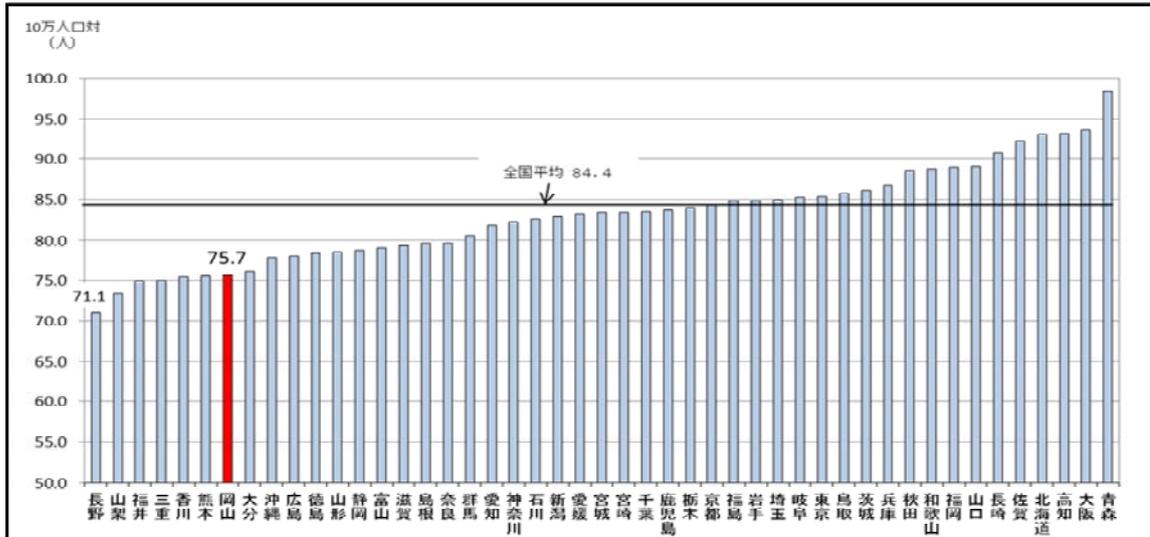
資料：国立がん研究センターがん対策情報センター「都道府県別死亡データ」

（参考）

年齢調整死亡率：都道府県別に、死亡率を比較すると、各都道府県の年齢構成に差があるため、高齢者の多い都道府県では高くなり、若年者の多い都道府県では低くなる傾向がある。このような年齢構成の異なる地域間で死亡状況の比較ができるように年齢構成を調整した死亡率が年齢調整死亡率（人口10万対）である。

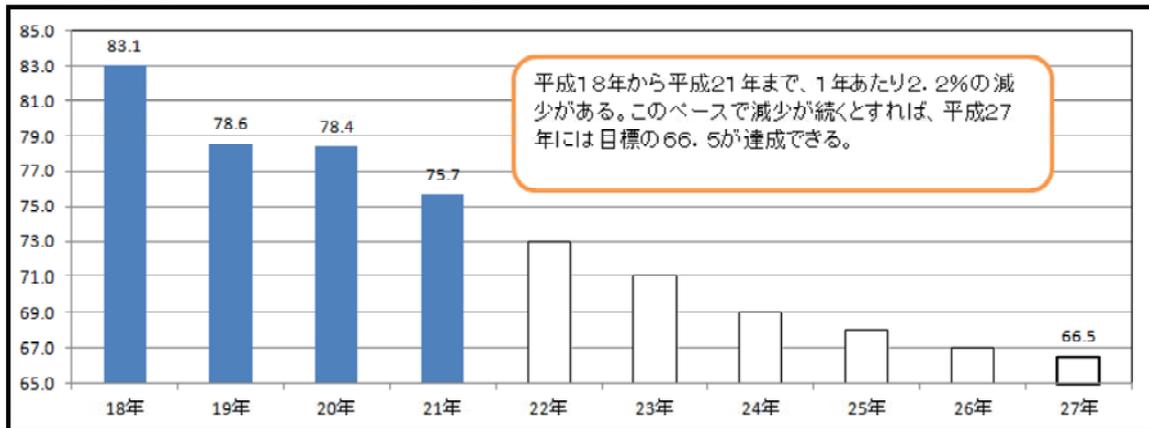
国が平成19年度に策定したがん対策推進基本計画において、「がんの年齢調整死亡率(75歳未満)の20%減少」を10年間の全体目標とされている。

平成21年都道府県別がんの年齢調整死亡率(75歳未満)



資料：国立がん研究センターがん対策情報センター「都道府県別死亡データ」

目標達成までのがん年齢調整死亡率(75歳未満男女計)の予想



全体目標2 がん患者及びその家族の苦痛の軽減並びに療養生活の質(QOL)の維持向上

がん患者とその家族の意思を尊重しながら、住み慣れた家族や地域での療養を安心して選択できる環境を整えることを目指す。

(進捗状況)

県民がどこに住んでいても、がんの標準的な専門医療を受けられるよう、医療体制の整備や、緩和ケア及び相談支援の充実、患者会等の支援等を行っている。

関連している分野別施策：がんの早期発見、がんの診断・治療に関する医療水準の向上、患者・家族への支援

3 計画の分野別施策の進捗状況

(1) がんの予防

(分野別目標)

がんに関する一般的な知識や生活習慣による発がんの影響等を知り、食生活運動等の生活習慣の改善に主体的に取り組む環境作りを推進する。

死亡率高い肺がんと、全国に比較して死亡率の高い肝がんに予防対策の重点を置くこととし、「喫煙問題」、「肝炎対策」、「生活習慣」の3項目に着目し、取り組む。

ア 喫煙問題

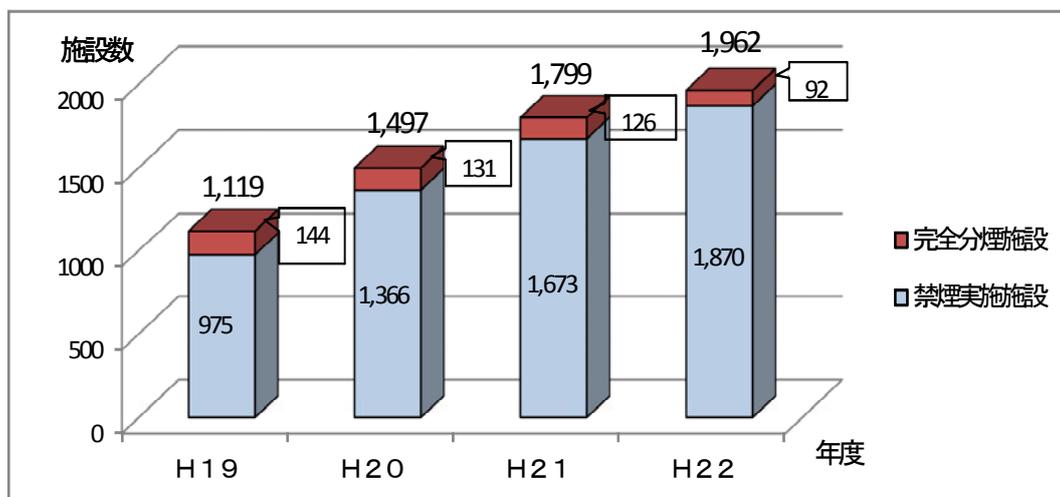
(個別目標)

たばこの害についての知識の普及、未成年の喫煙対策、分煙対策、禁煙支援について健康おかやま21と同じ目標値を掲げている。

(進捗状況)

禁煙・分煙をしている施設を、「禁煙実施施設」、「完全分煙実施施設」として22年度末現在、1,962施設を認定している。

「禁煙・完全分煙実施施設」認定状況 (目標：1,500施設以上)



未成年の喫煙防止対策として、県内の小学校6年生、中学生を対象としてリーフレットによりたばこの害についての啓発を行っており、喫煙率は、中学生では増加したものの、全体では減少傾向である。

青少年の喫煙率 (喫煙率目標：0%)

指 標		平成18年	平成22年
ほぼ毎日たばこを吸っている	中学生	0.5% (n=747)	0.9% (n=742)
	高校生	2.5% (n=889)	2.1% (n=873)
	中高全体	1.6% (n=1,636)	1.5% (n=1,615)

資料：男女共同参画青少年課「岡山県青少年の意識等に関する調査」

岡山県禁煙問題協議会、岡山県愛育委員連合会等と連携して禁煙を呼びかけるとともに禁煙問題に関する講演会等へ「禁煙問題アドバイザー」(H22:11回)を派遣している。

また、平成21年度から地域で行っている各種団体や学校、企業、市町村等が行うがん対策を目的とした取り組みを「がん対策協賛事業」として認定し、その支援を行っている。23年9月現在で23事業を認定している。

イ 肝炎対策

(個別目標)

市町村検診等における肝炎ウイルス検査の既受診者の割合を目指す。

(進捗状況)

肝炎対策については、平成23年度に「岡山県肝炎対策計画」を策定し、総合的に取り組むこととしている。

(参考) P10 岡山県肝炎対策計画(概要)

ウ 生活習慣

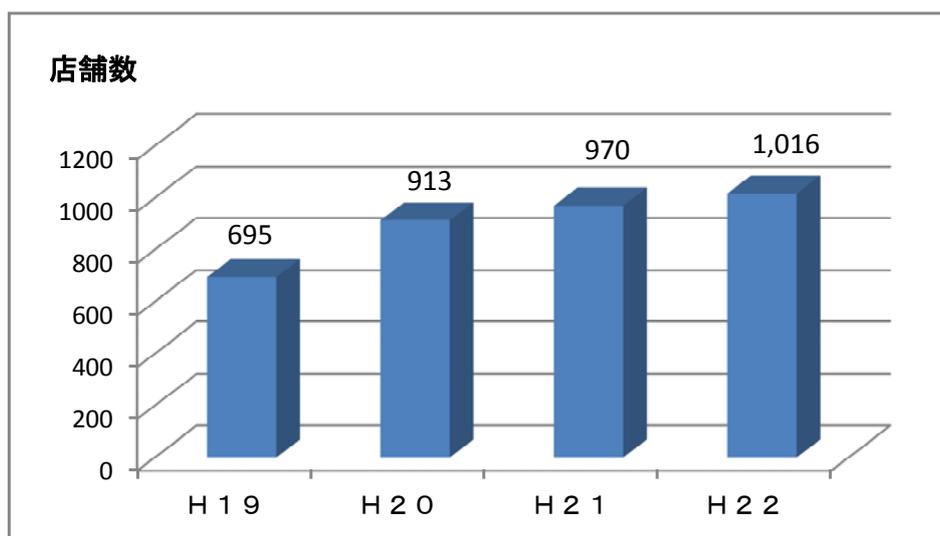
(個別目標)

栄養・食生活、身体活動・運動、アルコールについて健康おかやま21と同じ目標値を掲げる。

(進捗状況)

県民が、外食時に必要な栄養成分を知り、必要な栄養成分を過不足なく摂取できるよう、「栄養成分表示の店」を登録しており、22年度末現在、1,016施設を認定している。

「栄養成分表示の店」登録状況



食に関する知識や食を選択する力を身につけるため、岡山県栄養改善協議会と連携し、食事バランスガイドの活用した普及啓発等を行っている。

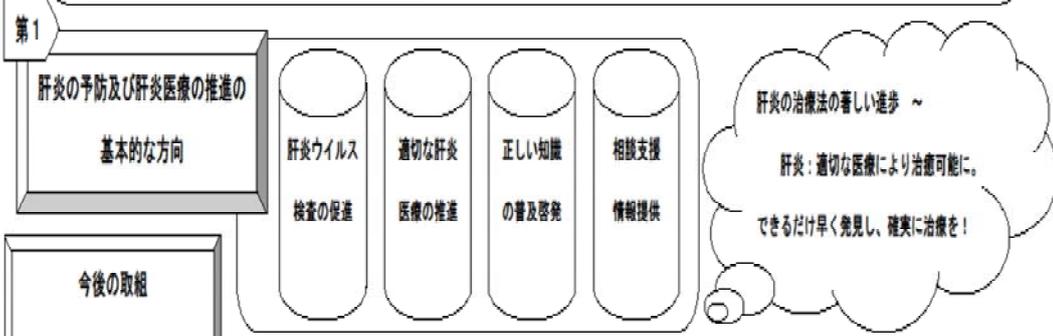
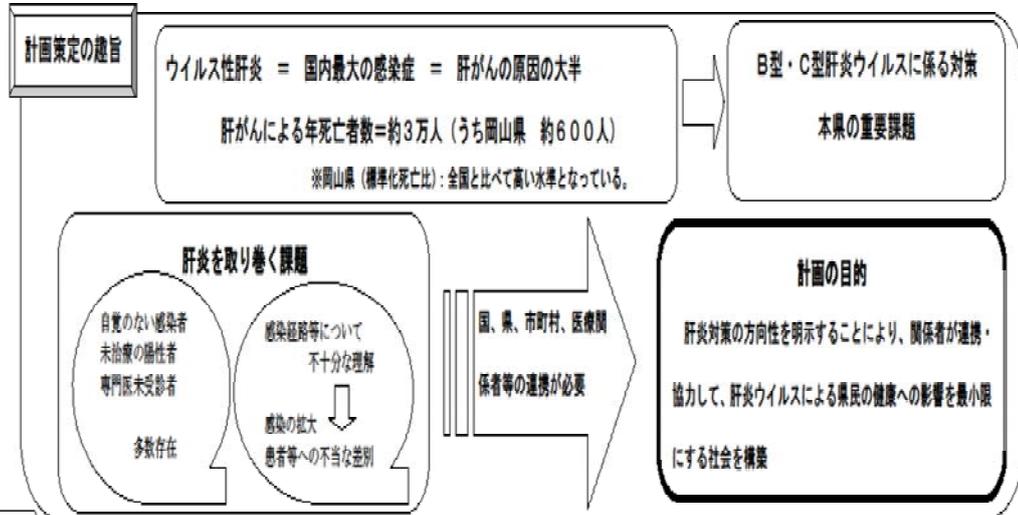
未成年者の飲酒をなくすため、教育媒体活用し、市町村や関係団体と連携して飲酒の害について教育を行っており、飲酒率は中学生、高校生とも減少傾向である。

青少年の飲酒率（飲酒率目標：0%）

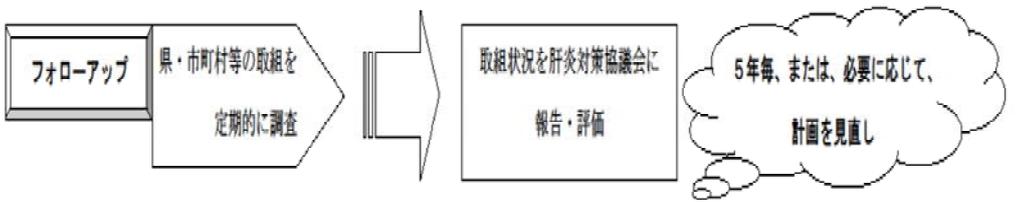
指 標		平成18年	平成22年
月1回以上酒を 飲んでいる	中学生	3.7% (n=747)	3.0% (n=742)
	高校生	10.6% (n=889)	5.7% (n=873)
	中高全体	7.5% (n=1,636)	1.5% (n=1,615)

資料：男女共同参画青少年課「岡山県青少年の意識等に関する調査」

岡山県肝炎対策計画の概要



第2	第3	第4	第5	第6	第7
予防のための施策	検査体制の充実	医療提供体制の確保	人材育成	普及啓発・人権尊重	その他
<p><方針> 県民への正しい知識の普及</p> <p><必要な取組> 普及啓発と情報提供 ・日常生活上の留意点 ・感染予防ガイドライン ・感染の危険性のある行為 ・ワクチンの有効性等 他</p>	<p><方針> ウイルス感染の早期発見・早期治療の促進</p> <p><必要な取組> ・1/1検査受検必要性の周知 ・検査体制の整備 ・地域肝炎対策サポーター等による受検勧奨 ・肝炎患者支援手帳の配付</p>	<p><方針> 適切な肝炎医療を受けられる体制の整備</p> <p><必要な取組> ・拠点病院の指定等肝炎医療体制の整備 ・肝臓早期発見地域連携バス「もも肝S」等の活用 ・肝炎相談センターの活用推進</p>	<p><方針> 感染予防や適切な医療へ結びつける人材の育成、医療従事者の資質向上</p> <p><必要な取組> ・地域肝炎対策サポーター等の育成 ・拠点病院が行う医療従事者研修への協力</p>	<p><方針> 感染予防、治療の促進、人権尊重の観点から、県民、保健・医療・福祉等関係者、患者等の各々に必要な知識・情報を普及啓発</p> <p><必要な取組> ・チラシ、ホームページ ・肝炎相談センターの運用 ・肝炎患者支援手帳の配付</p>	<p>①肝炎患者等とその家族等に対する支援の強化等 ②肝硬変・肝がん患者に対する更なる支援 ③肝炎に関する調査研究等 ④県民の責務に基づく取組 ⑤本計画の見直し等</p>



(2) がんの早期発見

(分野別目標)

がんの早期発見・早期治療のための体制を整備する。
「がん検診の受診率」、「がん検診の質」の2項目に着目し、取り組む。

ア がん検診の受診率

(個別目標)

胃がん、肺がん、大腸がん、子宮がん及び乳がんの検診の受診率（市町村、医療保険者及び全額自己負担実施分を含む）をいずれも50%以上とすることを旨とする。

精密検査受診率をいずれも90%以上とすることを旨とする。

(進捗状況)

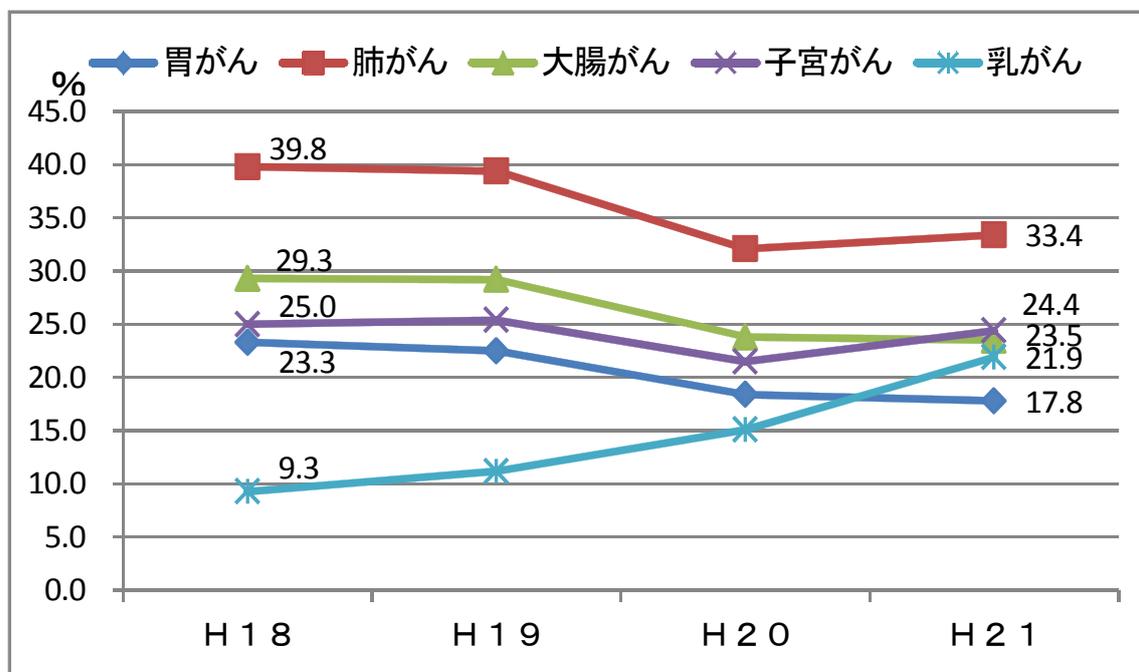
県内の市町村が行っているがん検診の受診率は、全ての検診で全国より高いものの、最も高い肺がんでも33.4%であり、目標とする50%には届かない状況である。しかし、乳がん検診については、上昇傾向にある。

また、人間ドックなど自己負担での検診や医療保険者による検診なども含めた受診率は、全ての検診で30%台となっている。

精密検査受診率は、最も高い乳がんでも80.0%と、目標とする90%には届かない状況であり、受診率は、横ばい傾向にある。

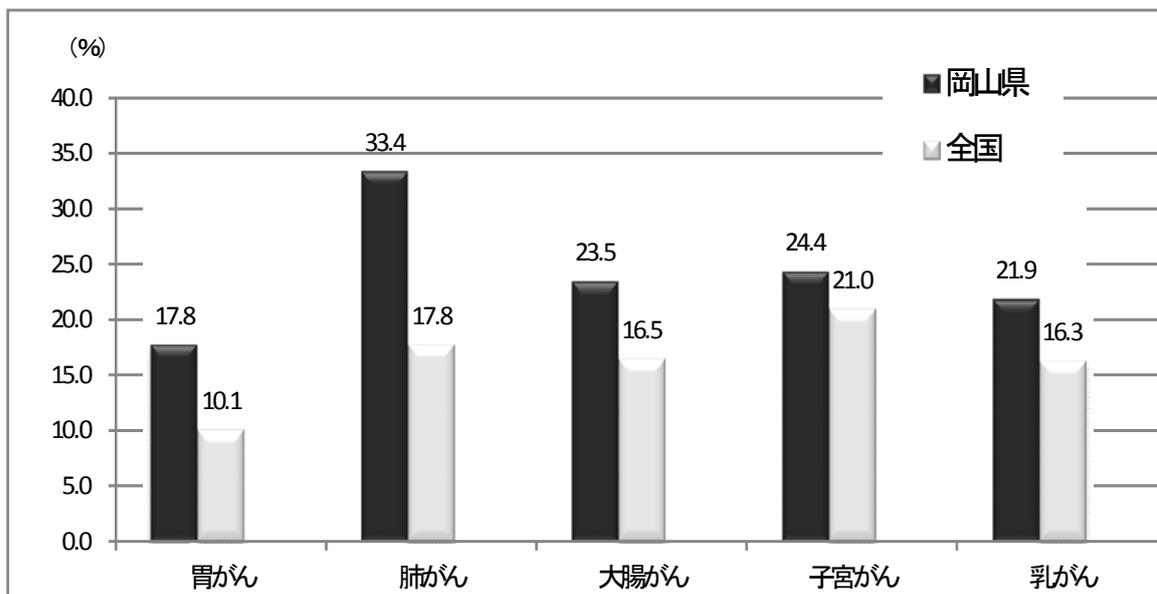
県内では、健康づくりボランティアである岡山県愛育委員連合会、岡山県栄養改善協議会等の協力を得ながらがん検診の普及啓発、受診勧奨に努めている。

市町村が実施するがん検診受診率の推移



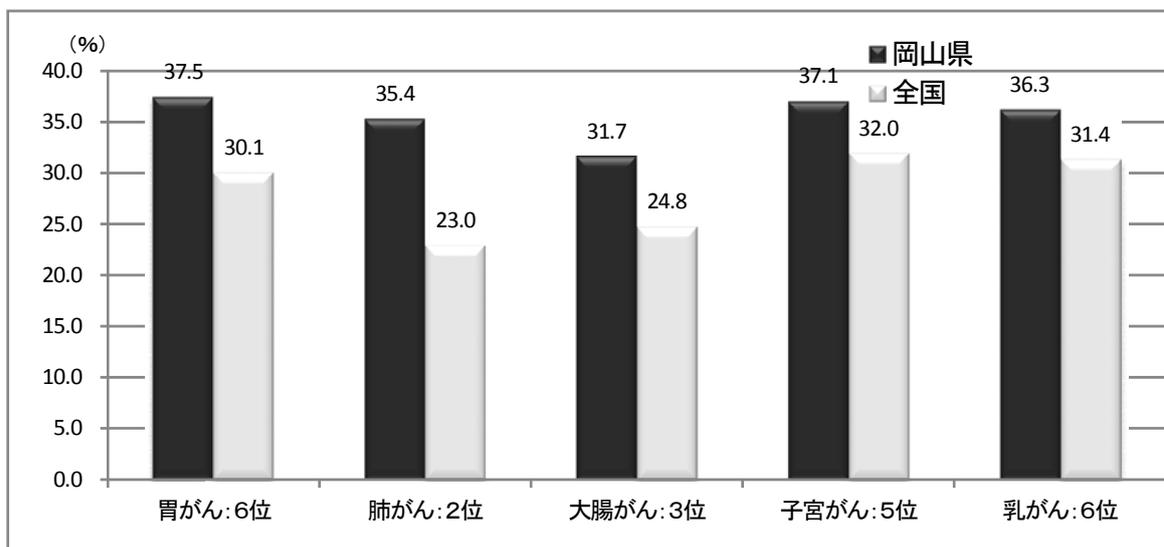
資料：厚生労働省「地域保健・健康増進事業報告」

市町村が実施するがん検診受診率及び全国との比較



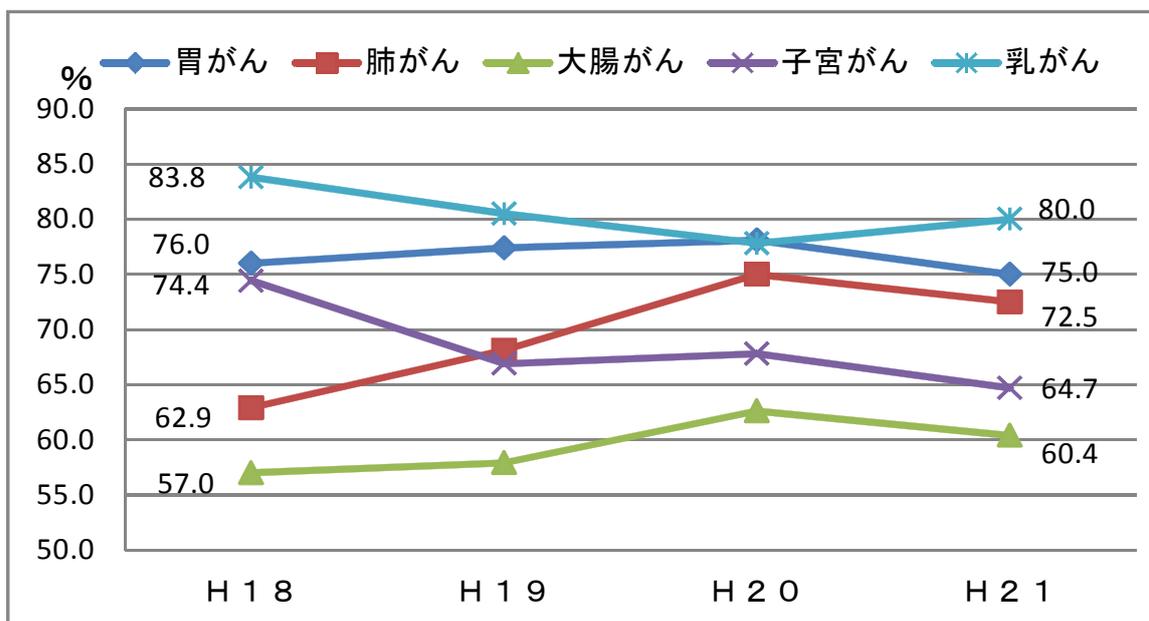
資料：厚生労働省「平成21年度地域保健・健康増進事業報告」

がん検診受診率及び全国順位



資料：厚生労働省「平成22年国民生活基礎調査」

がん精密検査受診率の年次推移



資料：厚生労働省「地域保健・健康増進事業報告」
岡山県健康推進課「平成22年健康増進事業にかかる結果報告」

イ がん検診の質

(個別目標)

市町村・検診機関により精度管理や事業評価が適正に実施され、がん検診の更なる精度の向上が図られる体制を目指す。

(進捗状況)

本県のがん検診の精度について、国が提示する*「がん検診を適正に実施する上で基本的な要件である許容値」と比較すると、以下のとおりとなる。

*平成20年3月「今後の我が国におけるがん検診事業評価の在り方について報告書：がん検診事業の評価に関する委員会」

要精検率は、肺がん、大腸がんが許容値を超え、がん発見率は乳がんが許容値を超えている。しかしながら、陽性反応適中度は許容範囲内であり、精度の高い適正ながん検診が行われている。

各がん検診の許容値と岡山県の比較

	胃がん		肺がん		大腸がん		子宮がん		乳がん	
	岡山県	許容値								
要精検率	7.1	11.0%以下	3.2	3.0%以下	7.6	7.0%以下	0.9	1.4%以下	7.0	11.0%以下
精密検査受診率	78.1	70%以上	75.0	70.0%以上	62.6	70%以上	67.8	70%以上	77.8	80%以上
がん発見率	0.13	0.11%以上	0.05	0.03%以上	0.14	0.13%以上	0.05	0.05%以上	0.21	0.23%以上
陽性反応適中度	1.9	1.0%以上	1.6	1.3%以上	1.9	1.9%以上	5.2	4.0%以上	3.0	2.5%以上

資料：厚生労働省「平成21年度地域保健・健康増進事業報告」

【参考】 がん検診事業評価指標値について

○計算方法

- ・要精検率＝要精検者数／受診者数×100
- ・精密検査受診率＝精検受診者数／要精検者数×100
- ・がん発見率＝がんであった者／受診者数×100
- ・陽性反応適中度＝がんであった者／要精検者数×100

○検診内容

- ・胃がん：胃X線
- ・肺がん：胸部X線と喀痰検査の併用
- ・大腸がん：便潜血検査
- ・子宮がん：細胞診
- ・乳がん：視触診とマンモグラフィの併用

また、県は、岡山県生活習慣病検診等管理指導協議会の子宮がん部会、肺がん部会、乳がん部会を開催し、検診の実施方法や精度管理のあり方等について協議し、さらには乳がん、肺がんの精密検診機関の登録・管理を行っている。

市町村においては、がん検診の事業評価の手法に基づき、各検診の「事業評価のためのチェックリスト」により、自己評価を実施している。

岡山県医師会においては、がん検診従事者への研修会を開催する等、がん検診従事者の資質向上を図り、また、胃がん・大腸がんの精密検診機関の登録・管理を行っている。

(3) がんの診断・治療に関する医療水準の向上

(分野別目標)

終末期も含めて、本人の意思が尊重され、住み慣れた家庭や地域において、適切な医療を受けながら質の高い生活が継続できる医療提供体制の構築を目指す。

ア がん診療連携拠点病院

(個別目標)

すべての県・地域がん診療連携拠点病院が、高度な医療機能を有する機関としての役目を果たしながら、関係機関と診療技術の必要な情報を円滑に共有できる体制の構築を目指す。

(進捗状況)

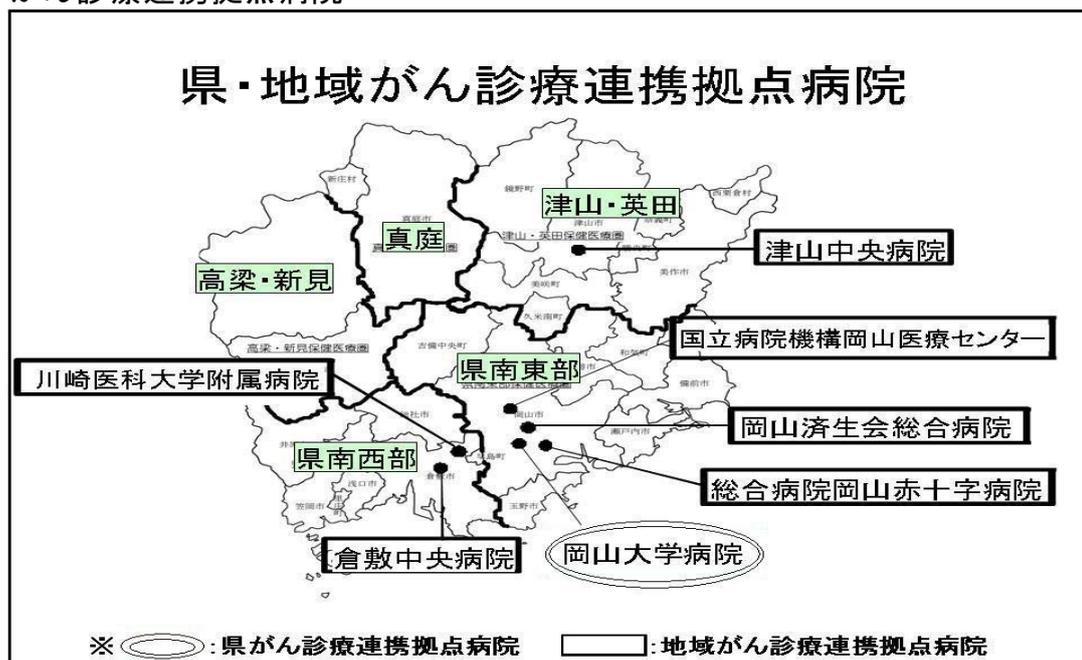
県内のどこでも質の高いがん医療を提供するために、国が定める整備指針に基づき、がん診療連携拠点病院(7カ所)を整備し、平成22年4月1日から指定更新となった。(指定期間4年)

がん診療連携拠点病院は、専門的ながん医療の提供の他に、がん診療の連携協力体制を行いながら、地域の医療機関と連携した診療を行っている。

岡山大学病院は県がん診療連携拠点病院として機能し、6カ所の地域がん診療連携拠点病院はそれぞれの特徴を生かした役割を担い、二次保健医療圏の枠を超えて、がん医療を提供している。また、地域の医療機関と連携した診断及び治療に関する協力体制を進めている。

がん診療連携拠点病院、県医師会、県等で構成する岡山県がん診療連携協議会は、県内のがん診療の質の向上及びがん診療の連携協力体制の構築を目指して設置され、作業部会(がん相談支援部会、緩和医療部会、がん登録部会、地域連携部会、がん看護部会等)を設けて、がん医療対策を推進している。

がん診療連携拠点病院



【がん診療連携拠点病院の状況】

①年間の入院患者数(平成21年) (人)

病院名	年間新入院がん患者数 (実数) (H21年1月～12月)	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合 (%)
岡山大学病院	2,029	28.3
岡山済生会総合病院	3,079	23.5
総合病院岡山赤十字病院	1,912	17.5
岡山医療センター	2,519	17.9
倉敷中央病院	7,288	23.2
川崎医科大学附属病院	3,146	21.1
津山中央病院	1,857	18.2

資料：平成22年度がん診療連携拠点病院現況報告書

②がんの手術件数(平成22年4月～7月) (件)

病院名	治療件数(手術件数) H22年4～7月の集計									
	悪性腫瘍 手術総数	肺がん		胃がん手術		大腸がん手術		肝臓がん		乳がん
		開胸手術	胸腔鏡下 手術	開腹手術	内視鏡手術 粘膜 切除術	開腹手術	内視鏡手術	開腹手術	ラジオ波 焼灼療法	乳癌手術
岡山大学病院	679	16	30	9	1	15	3	30	70	41
岡山済生会総合病院	254	11	15	31	14	43	36	15	51	26
総合病院岡山赤十字病院	270	1	16	16	1	10	7	3	3	19
岡山医療センター	534	0	18	18	0	14	18	13	9	13
倉敷中央病院	729	9	57	57	2	56	5	5	50	38
川崎医科大学附属病院	90	4	18	18	0	4	0	3	0	15
津山中央病院	247	0	12	27	1	27	2	3	11	21

資料：平成22年度がん診療連携拠点病院現況報告書

③放射線治療・薬物療法の実績 (人)

病院名	放射線治療		がん薬物療法	
	年間患者実数 (H21年1～12月)		H22年4月～7月 延患者数	
	体外照射	小線源治療	入院患者数	外来患者数
岡山大学病院	593	218	553	369
岡山済生会総合病院	246	0	55	835
総合病院岡山赤十字病院	200	0	161	257
倉敷中央病院	606	8	626	637
津山中央病院	181	0	193	543
岡山医療センター	217	0	418	398
川崎医科大学附属病院	570	107	414	451
計	2,613	325	2,420	3,490
(参考)計画策定時(平成19年度報告)	2,563	211	-	-

資料：平成22年度がん診療連携拠点病院現況報告書

④がん診療連携拠点病院の緩和ケアの実績

病院名	外来での緩和ケアの提供	緩和ケア外来患者数 (H21年1月～12月)	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数 (H22年6月～7月)
岡山大学病院	○	14	15
岡山済生会総合病院	○	768	20
総合病院岡山赤十字病院	○	1527	30
岡山医療センター	○	60	19
倉敷中央病院	○	11	18
川崎医科大学附属病院	○	49	16
津山中央病院	○	200	30

資料：平成22年度がん診療連携拠点病院現況報告書

⑤地域の医師等を対象にしたがんの早期診断等に関する研修

病院名	H21年度4月～8月に実施した研修内容
岡山大学病院	肺がんに関する拡大手術について 他2回
岡山済生会総合病院	消化管悪性腫瘍と救急 他4回
総合病院岡山赤十字病院	胃がんの腹腔鏡手術 (*H21年3月実施)
岡山医療センター	肺癌の臨床
倉敷中央病院	肝がんの診療連携パス 他1回
川崎医科大学附属病院	呼吸器内科・呼吸器外科、放射線科合同の症例検討会 他7回
津山中央病院	大腸癌学術講演会 他4回

資料：平成22年度がん診療連携拠点病院現況報告書

⑥地域の医師等も参加するがん診断・治療等の合同会議

病院名	H21年4月～8月に実施した内容
岡山大学病院	骨盤悪性腫瘍：治療、看護ケア、リハビリテーション 他2回
岡山済生会総合病院	乳腺病理カンファレンス 他5回
総合病院岡山赤十字病院	肺がんの診断、診察について相談症例の検討 他20回
岡山医療センター	大腸癌のカンファレンス 他4回
倉敷中央病院	呼吸器内科、呼吸器外科合同カンファレンス 他23件
川崎医科大学附属病院	呼吸器X線カンファレンス 他22回
津山中央病院	がん症例カンファレンス 他3回

資料：平成22年度がん診療連携拠点病院現況報告書

⑦岡山県がん診療連携協議会の開催状況(平成22年度)

会議名	開催回数	出席者数(延)
岡山県がん診療連携協議会会議	4回	149人
作 業 部 会 ：がん相談支援実務者会議	4回	115人
：地域連携パス部会	4回	95人
：がん看護部会	6回	87人
会 議 ：緩和ケア実務者会議	2回	52人

(参考)

がん診療連携拠点病院は、「がん診療連携拠点病院の整備に関する指針」(厚生労働省)に基づき整備された病院で、専門的ながん医療の提供、がん診療の連携協力体制の整備、がん患者への相談支援及び情報提供等を行う。

がん診療連携拠点病院の診療機能の一部

- ①手術、放射線療法及び化学療法を効果的に組み合わせた集学的治療、診療ガイドラインに準ずる標準的治療を提供
- ②地域連携クリティカルパスの整備
- ③緩和ケアチームを整備するとともに、外来で専門的な緩和ケアの提供
- ④地域の医療機関と相互に診断及び治療に関する連携協力体制
- ⑤セカンドオピニオンを提示する体制 等

都道府県がん診療連携拠点病院は、がん診療連携協議会を設置し、次の事を行う。

- ①当該都道府県におけるがん診療の連携協力体制及び、相談支援の提供体制、その他、がん医療に関する情報交換
- ②当該都道府県内の院内がん登録のデータの分析、評価
- ③がんの種類ごとに、当該都道府県においてセカンドオピニオンを提供できる医療機関の一覧を作成・共有・広報
- ④当該都道府県におけるがん診療連携拠点病院が作成しているがん地域連携パスの一覧を作成・共有 等

【がんの手術等を実施する医療機関の状況】

①主ながんの手術件数（平成21年度）

領域		呼吸器領域		消化器系領域		肝・胆道・膵臓領域		婦人科領域		乳腺領域	
		施設数	件数	施設数	件数	施設数	件数	施設数	件数	施設数	件数
二 次 保 健 医 療 圏	県南東部	17	513	19	1,400	22	461	17	186	22	585
	県南西部	13	415	26	1,214	16	409	5	200	19	537
	高梁・新見	—	—	4	10	—	—	1	0	3	2
	真庭	3	1	4	29	3	0	—	—	5	12
	津山・英田	2	56	4	255	2	59	2	17	3	48
計		35	985	57	2,908	43	929	25	403	52	1,162
計画策定時(平成19年度報告)		37	756	68	3,082	43	810	24	335	51	961

資料：平成22年度岡山県医療機能調査

②緩和ケア・放射線治療領域、外来化学療法の医療機関数（平成21年度）

領域		緩和ケア領域		放射線治療領域					外来での 化学療法
		医療用麻薬によるがん疼痛治療	がんに伴う精神症状のケア	体外照射	ガンマナイフによる定位照射	直線加速器による定位放射線治療	密封小線源照射	術中照射	
二 次 保 健 医 療 圏	県南東部	172	54	6	1	2	1	3	61
	県南西部	102	33	3	—	2	2	—	41
	高梁・新見	10	5	—	—	—	—	—	3
	真庭	15	—	—	—	—	—	—	4
	津山・英田	37	10	1	—	—	—	—	11
計		336	102	10	1	4	3	3	120
計画作成時(平成19年度報告)		300	90	12	1	3	3	3	125

資料：平成22年度岡山県医療機能調査

③セカンドオピニオンを受けられる医療機関数（平成23年6月集計）

実施医療機関	がん診療連携拠点 病院を除く医療機関	がん診療連携 拠点病院	計
		27	7

資料：岡山県がん診療連携協議会ホームページ掲載「岡山県のセカンドオピニオン実施医療機関」

(参考)

セカンドオピニオンとは、主治医の診断や治療方針について、別の医師に意見を求めること。医療技術の進歩により、多種多様な治療方法があるため、自分にとって、より最善の治療法を幅広い視野で選ぶために行う。

イ 地域連携クリティカルパス

(個別目標)

県・地域がん診療連携拠点病院は、5大がん地域連携クリティカルパスを平成24年度までに整備する。

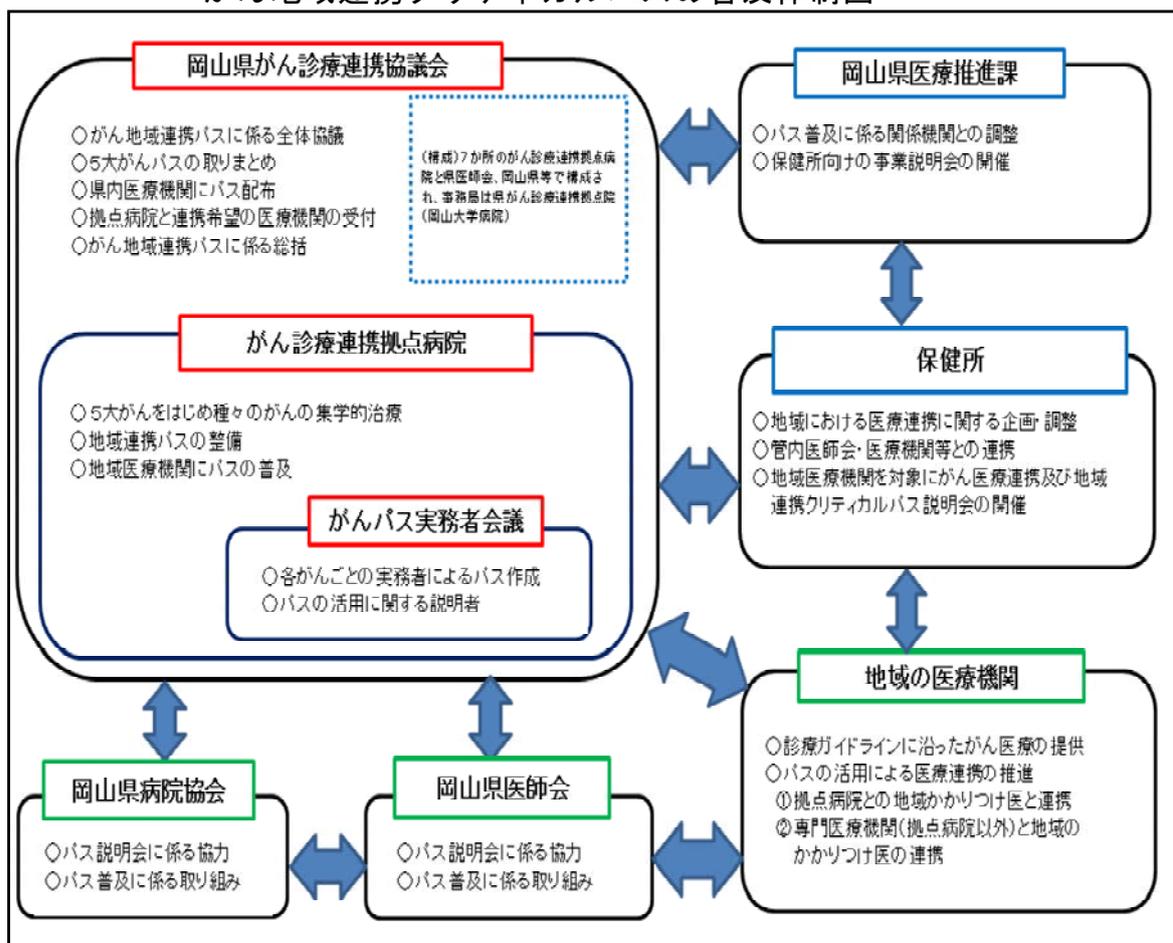
(進捗状況)

岡山県がん診療連携協議会において、5大がん（胃がん、大腸がん、乳がん、肺がん、肝がん）の地域連携クリティカルパスの整備に取り組み、平成22年7月に、がんの種類ごとに「私の診療手帳」（患者用）を作成し、同協議会ホームページにおいて公開した。

県は、同協議会の事務局である岡山大学病院に委託して、県内の5大がんを診療する医療機関にパスの配布を行った。（配布：1168カ所）

がん医療連携を進めていくために、がん診療連携拠点病院と保健所が連携して、地域の医療機関等を対象に説明会を県内各地で開催し、パスの活用を図っている。

がん地域連携クリティカルパスの普及体制図



岡山県版5大がん地域連携クリティカルパス（患者用）



(参考)

がん地域連携クリティカルパスとは、治療の全体像を体系化したがん治療連携計画書のことで、診療にあたる複数の医療機関が、役割分担を含め、あらかじめ診療内容を患者に提示・説明することにより、患者が安心して医療を受けることができるようにするもの。

現在の岡山県版のがん地域連携クリティカルパスは、5大がん（胃がん、大腸がん、乳がん、肺がん、肝がん）の手術後の治療連携計画書である。

がん診療連携拠点病院の指定要件が平成20年3月に見直され、「我が国に多いがんについて、地域連携クリティカルパスを整備すること」について、平成24年4月1日から施行されることになっており、がん診療連携拠点病院現況報告(平成23年10月)までに充足する必要がある。

ウ 緩和ケア

(個別目標)

すべてのがん診療に携わる医師が、緩和ケアについての基本的な知識を習得し、入院治療はもとより在宅療養においても緩和ケアが適切に行われる医療提供体制を整備する。

(進捗状況)

すべてのがん診療に携わる医師が、緩和ケアについての基本的な知識を持ち、治療の初期段階から緩和ケアが提供できるよう、がん診療連携拠点病院及び県等は、岡山県医師会の協力を得ながら、地域の医療機関を対象にした緩和ケア研修会を毎年開催し、平成22年度末現在で561名が修了した。修了者氏名(同意のあった医師)については、県ホームページで公表している。

第6次岡山県保健医療計画(計画期間平成23年度~平成27年度)において、がん医療の指標の一つに、緩和ケア研修会を修了した医師数1,800人を数値目標として、緩和ケアの推進を図ることとした。

①緩和ケア研修会を修了した医師数

年度	県南東部	県南西部	高梁・新見	真庭	津山・英田	計
平成20年度	64	10	2	3	4	83
平成21年度	136	67	7	6	29	245
平成22年度	120	78	3	2	30	233
計	320	155	12	11	63	561

資料：岡山県医療推進課調べ

②緩和ケア研修会を修了した医師が就業医師に占める割合

	県南東部	県南西部	高梁・新見	真庭	津山・英田	計
病院・診療所の医師数(A)	2,792	1,745	92	79	340	5,048
緩和ケア研修会を修了した医師数(B)	320	155	12	11	63	561
緩和ケア修了した医師の割合(B/A)(%)	11.5	8.9	13.0	13.9	18.5	11.1

(注) 病院・診療所の医師数は、「平成20年医師・歯科医師・薬剤師調査」による

③緩和ケア研修会 全国との比較

	修了書 交付枚(A)	開催回数 (B)	1回あたりの 研修会修了 者数(A/B)	悪性新生物総 患者数(C)	修了者1人あたり の患者数(C/A)	備考
全国	23,013	1,156	20	1,515,000	66	
岡山県	561	20	28	22,000	39	7位

(注) (A)及び(B)は、平成22年3月31日現在、厚生労働省において確認したもの
(C)は、平成20年患者調査における都道府県別悪性新生物患者数

資料：厚生労働省 平成23年全国がん対策関係主管課長会議資料

④第6次保健医療計画 数値目標

緩和ケア研修を修了した医師数	平成27年度末目標
	1,800人

⑤緩和ケア病床数(平成23年9月末現在)

二次保健医療圏	県南東部	県内西部	高梁新見	真庭	津山英田	計
医療機関数	3	1				4
病床数	59	20				79
計画策定時(H19年度)の病床数	59	20				79

資料：中国四国厚生局「施設基準の届出受理状況」

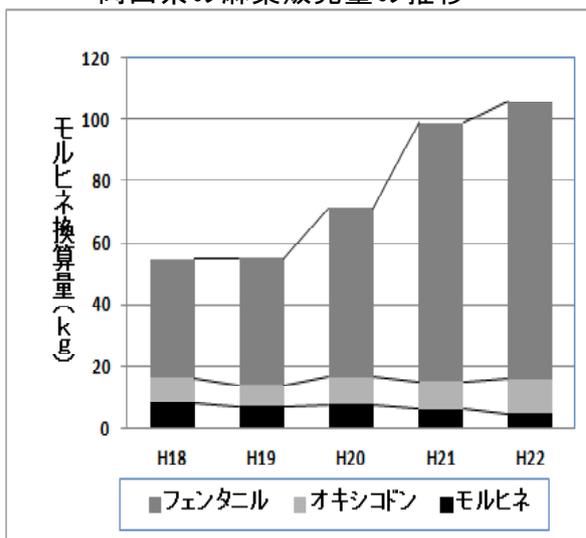
⑥がん診療連携拠点病院の緩和ケアの実績(再掲:P17④)

病院名	外来での緩和ケアの提供	緩和ケア外来患者数 (H21年1月～12月)	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数 (H22年6月～7月)
岡山大学病院	○	14	15
岡山済生会総合病院	○	768	20
総合病院岡山赤十字病院	○	1527	30
岡山医療センター	○	60	19
倉敷中央病院	○	11	18
川崎医科大学附属病院	○	49	18
津山中央病院	○	200	30

資料：平成22年度がん診療連携拠点病院現況報告書

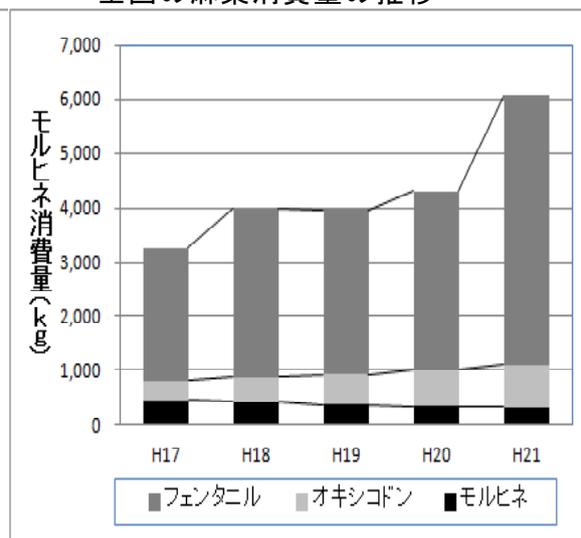
(参考)

岡山県の麻薬販売量の推移



資料：岡山県医薬安全課調べ
麻薬卸業者半期報告より算出(病院、薬局等への譲渡数量)

全国の麻薬消費量の推移



資料：厚生労働省「麻薬・覚せい剤行政の現況」

麻薬に係る調剤の実施可能な薬局

	総数	保健医療圏				
		県南東部	県南西部	高梁・新見	真庭	津山・英田
麻薬に係る調剤が実施可能な薬局数	589	297	175	17	20	80
計画策定時(平成19年度報告)	558	273	164	17	22	82

資料：平成22年度岡山県医療機能調査

エ 在宅医療（療養）

（個別目標）

住み慣れた家庭や地域で、適切な医療を受けながら、本人の意思が尊重され、尊厳が保たれた生活の継続を選択できるがん患者の増加を目指す。

（進捗状況）

県では、県内の医療機関・薬局等の疾患・治療や専門医等の情報について、「おかやま医療情報ネット」（ホームページ）で公開し、地域別等で検索できるようにしている。

岡山県がん看護に関するエキスパートナース養成実務者研修会を平成19年度から平成21年度に実施し、3カ年で47名の看護師が修了した。その後は、岡山大学病院が中心となり、岡山県内のがん看護領域における連携体制の整備や、がん看護の質の向上を目指して、専門的な研修会を開催している。

本年9月から、「訪問看護コールセンターおかやま」を岡山県医師会に委託して開設し、訪問看護の利用や関係機関の連携に向けての相談に対応している。

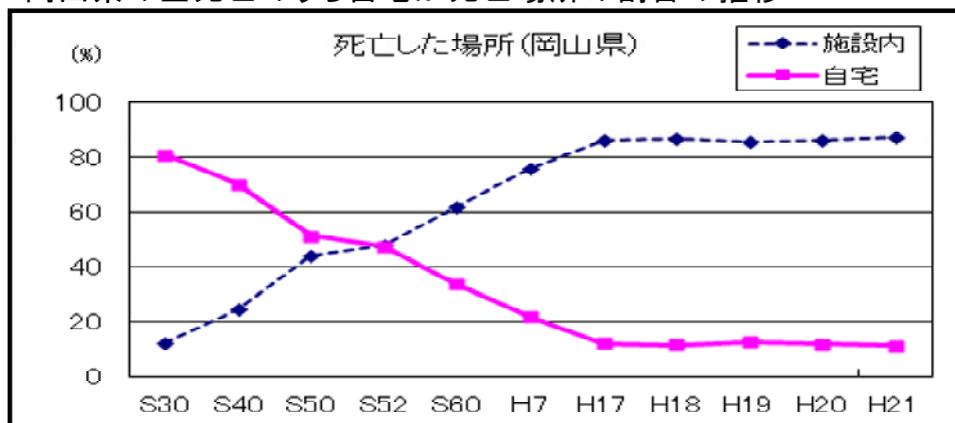
（参考）

がん患者の死亡場所別死亡割合（平成21年）

平成21年		自宅	老人ホーム	介護老人保健施設	診療所	病院	その他	計
岡山県	がん死亡数(人)	321	45	24	122	4,758	28	5,298
	がん死亡に占める割合(%)	6.1	0.8	0.5	2.3	89.8	0.5	100
全国	がん死亡数(人)	25,433	3,167	1,058	6,991	306,005	1,451	344,105
	がん死亡に占める割合(%)	7.4	0.9	0.3	2.0	88.9	0.4	100

資料：厚生労働省「平成21年人口動態統計」

岡山県の全死亡のうち自宅が死亡場所の割合の推移



（注）この表の施設には、医療機関を含む

資料：厚生労働省「人口動態統計」

オ 放射線療法・化学療法

(個別目標)

外来放射線療法・外来化学療法を受ける患者の増加を目指す。

(進捗状況)

外来放射線療法については、がん診療連携拠点病院における放射線療法（体外照射及び小線源治療）の年間患者の合計は、計画策定時（平成19年度がん診療連携拠点病院現況報告）は、年間2,774件であったが、平成21年度では、年間2,938件と増加している。

また、外来化学療法については、がん診療連携拠点病院におけるがん薬物療法の外来患者数は、平成21年度実績は（4月～7月）3,490人であったが、計画策定時の調査月間は異なり、年間の集計ではないため、比較ができない。

（参考）P16 ③放射線治療・薬物療法の実績

カ がん診療ガイドライン

(個別目標)

がん診療ガイドラインに沿った医療を実施する医療機関の増加を目指す。

(進捗状況)

がん診療連携拠点病院では、手術、放射線療法及び化学療法を効果的に組み合わせた集学的治療とともに、がん診療ガイドラインに沿った医療を提供しながら、県内のがん医療水準の向上に大きな役割を果たしており、地域の医療機関と連携して診療を行う中で、がん診療ガイドラインに沿った医療を実施する医療機関が増えていくよう、関係機関とともに推進している。

キ 医療従事者

(対策)

医療従事者の研修の機会の確保に努める。

(進捗状況)

がん診療連携拠点病院は、地域の医療従事者を対象にがん治療の技術向上や医療連携等に関する研修会を開催している。

県は、岡山県医師会に委託し、地域のかかりつけ医療機関を対象に、がん医療に関する研修を開催している。

また、岡山大学及び川崎医科大学等の8つの大学で組織する中国四国広域がんプロフェッショナル養成コンソーシアムでは、がんプロフェッショナル養成プランとして、がんに関わる多職種（医師、看護師、薬剤師等）を対象に、がん医療の担い手となる高度な知識・技術をもつがん専門医療人を養成するとともに、臨床経験者を対象の研修を行っている。

なお、県は、医療従事者を対象に、岡山在宅医療の推進のための実地研修事業を岡山県医師会に委託して実施している。

【医療従事者を対象にした研修等】

①地域の医師等を対象にしたがんの早期診断等に関する研修(再掲:P17⑤)

病院名	H21年度4月～8月に実施した研修内容
岡山大学病院	肺がんに関する拡大手術について 他2回
岡山済生会総合病院	消化管悪性腫瘍と救急 他4回
総合病院岡山赤十字病院	胃がんの腹腔鏡手術 (*H21年3月実施)
岡山医療センター	肺癌の臨床
倉敷中央病院	肝がんの診療連携バス 他1回
川崎医科大学附属病院	呼吸器内科・呼吸器外科、放射線科合同の症例検討会 他7回
津山中央病院	大腸癌学術講演会 他4回

資料：平成22年度がん診療連携拠点病院現況報告書

②岡山県の在宅医療・がん関係研修(平成22年度)

研修会	開催回数(回)	参加者数(人)
在宅医療に関する研修会	2	178
がん検診に関する研修会		
乳がん関係	8	344
胃がん・大腸がん関係	4	271
肺がん関係	3	135
細胞診関係	2	115

③がんプロフェッショナル養成プランの県内大学の養成受入者数(平成23年5月)

養成コース	養成受入者数(人)		
	岡山大学	川崎医科大学	計
がん専門医コース			
がん薬物療法専門医コース	16	3	61
放射線治療専門医コース	8	—	
緩和医療専門医コース	3	—	
腫瘍外科専門医コース	24	7	
コメディカル養成コース			
がん専門薬剤師コース	4	—	28
がん専門看護師コース	11	—	
医学物理士コース	13	—	

資料：中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム事務局から聞き取り

(参考)

中国四国広域がんプロフェッショナル養成プラン

中国・四国地域に位置する岡山大学、川崎医科大学、愛媛大学、香川大学、高知大学、高知女子大学、徳島大学、山口大学の8大学がひとつの共同体を結成して、がんプロフェッショナル養成プラン(文部科学省)を平成19年度から開始した。

大学院を軸に、参加大学の特性・専門性を活かしたメディカル・コメディカルのがん専門医療人養成コースでは大学病院・がんセンターでの演習(キャンサーボード、外来化学療法センター、緩和ケアチームなど)を必修としている。

メディカル・コメディカル共通の講義・演習も積極的に設けて、多職種によるチーム医療を担う人材を育成している。

また、既に地域で活躍している医療人を対象とした各種インテンシブコースも設置し、包括的ながん専門医療人養成を行っている。

資料：中国四国広域がんプロフェッショナル養成コンソーシアムのホームページ

(4) 患者・家族への支援

(分野別目標)

がん患者が、住み慣れた地域や家庭での療養を選択できる体制を整備する。

ア 相談窓口

(個別目標)

がん患者会、医療機関、行政機関等との連携により、がん患者やその家族、医療従事者及び行政関係者が互いに支援できる連携体制を整備する。

(進捗状況)

がん診療連携拠点病院に設置されている「がん相談支援センター」には、専門の相談員を複数配置し、がんの治療や経済的な問題、在宅医療等の不安について、院内外にかかわらず患者・家族に対応している。また、広報用のパンフレットを作成し、利用促進に向けた街頭キャンペーンや地域に出向いて個別相談会を行ったり、地域の訪問看護ステーションに活動紹介を行うなど、県民に利用の促進を図っている。

また、がん診療連携拠点病院では、患者・家族の交流や相談の場としてがんサロン等を開催し、患者が相談しやすい体制づくりを推進している。

県では、地域で活動している患者会(11団体:平成23年10月現在)を対象に、がん患者会ネットワーク会議を開催して情報交換等を行うとともに、がんの医療、福祉等の専門家を派遣し、患者及び家族の療養生活の不安を軽減する患者会の相談活動の支援を行っている。

県内がん相談支援センターの相談員の状況

がん診療連携拠点病院の相談員の合計 (人)	(再掲)相談員のうち国立がん研究センターの相談員基礎研修を受けている人数(人)
46	34

資料：平成22年度がん診療連携拠点病院現況報告書



県内がん相談支援センターでの相談件数

年度	相談件数(件)
平成21年度	3,167
平成22年度	3,838

資料：岡山県がん診療連携協議会調べ

がん患者会への専門家派遣事業(平成22年度)

派遣した専門家の延人数(人)	参加者延数(人)
7	322

*派遣した専門家の職種：医師、薬剤師、看護師等

(参考)

相談支援センターの業務について(「がん診療連携拠点病院の整備に関する指針」から抜粋)

- ①がんの病態、標準的治療法等がんの診断及びがんの予防・早期発見等に関すること
- ②診療機能、入院・外来の待ち時間及び医療従事者の専門とする分野、経歴など、地域の医療機関及び医療従事者に関する情報の収集、提供
- ③セカンドオピニオンの提示が可能な医師の紹介
- ④がん患者の療養上の相談
- ⑤地域の医療機関及び医療従事者等におけるがん医療の連携協力体制の事例に関する情報収集、提示
- ⑥アスベストによる肺がん及び中皮腫に関する医療相談
- ⑦HTLV-1関連疾患であるALTに関する医療相談
- ⑧その他相談支援に関すること

イ 情報公開

(進捗状況)

岡山県がん診療連携協議会では、ホームページで、がん相談支援センター、セカンドオピニオン実施医療機関、地域連携クリティカルパス、がんサロン、市民公開講座等について情報公開をしている。

県では、がん情報提供サイトとして岡山がんサポート情報を開設し、岡山県のがんの現状、がん検診、緩和ケア、患者会、研修会等について県民に発信している。

岡山県がん診療連携協議会(ホームページ)のトップ画面

<http://www.okayama-ganshinryo.jp/>

岡山県がん診療連携協議会

最新のお知らせ **中** **大** **検索**

トップページ | がん医療に関するリンク集 | お問い合わせ

岡山県がん診療連携協議会について | 兵庫部会 | 岡山県のがん対策 | がん相談支援センター | 岡山県のセカンドオピニオン実施医療機関 | 地域連携パス | 岡山県の癌学会・患者会・がんサロン情報 | セミナー・研修会情報

**がんを知り、
がんと向き合い、
がんに負けることのない
社会の実現のために**

東日本大震災に被災された方々に心からお見舞い申し上げます。▶ 岡山県内のがん診療連携拠点病院の状況と受入体制 (各病院がん相談支援センターへお問い合わせ下さい)

2011年 12月23日 【医療従事者の方へ】『第3回 小児がん患者・家族および子育て世代のがん患者・家族への支援を考える』

2011年 12月17日-18日 【医療従事者の方へ】『第16回精神腫瘍学の基本教育に関する指導者研修会』

2011年 12月2日-3日 【医療従事者の方へ】『がんの社会学 合同班会議・公開フォーラム がん看護の将来像 ―患者を支える新外来システムの構築と専門職の育成―』

2011年 11月19日 【医療従事者の方へ】『がん医療の地域連携とクリティカルパスに関する説明会(第2回目)』

2011年 11月12日-13日 【医療従事者の方へ】『2011年度 がん治療認定医 教育セミナー-認定医試験』

2011年 11月11日 【医療従事者-一般の方へ】『患者必携「地域の療養情報」の提供に向けて 地域における情報発信とがん患者支援』

2011年 11月8日 【医療従事者の方へ】『岡山済生会総合病院 第50回病診連携研修会』

2011年 11月4日 【医療従事者の方へ】『がん医療に携わる医師のためのコミ』

最終更新 2011年 10月17日

岡山県内のがん診療連携拠点病院

- 岡山県がん診療連携拠点病院
 - 岡山大学病院
- 地域がん診療連携拠点病院
 - 岡山済生会総合病院
 - 総合病院 岡山赤十字病院
 - 財団法人 倉敷中央病院
 - 財団法人津山慈恵会 津山中央病院
 - 独立行政法人国立病院機構 岡山医療センター
- 川崎医科大学附属病院

岡山県がん患者支援情報提供サイト
岡山がんサポート情報

岡山県がん診療連携協議会からのお知らせ

今日 印刷 週月 予定リスト

日	月	火	水	木	金	土	日
	25	26	27	28	29	30	10月 1日
		19:30 岡山済生会総合病院				14:00 岡山済生会総合病院	
	2	3	4	5	6	7	8
				10:00 がん医療の地域連携			
	9	10	11	12	13	14	15
		体育の日					
13:30 緩和ケア市民公開 18:00 第10回岡山県がん	16	17	18	19	20	21	22
						10:00 岡山県がん看護セ	
	23	24	25	26	27	28	29
		10:00 がん医療の地域連携					
	30	31	11月 1日	2	3	4	5
				23日(祝) 敬老の日			

予定を表示するタイムゾーン: 東京

岡山がんサポート情報(県ホームページ)のトップ画面

http://www.pref.okayama.jp/hoken/cancer/



岡山県がん患者支援情報提供サイト
岡山がんサポート情報

岡山県保健福祉部医療推進課（計画推進班） 電話：086-226-7321
 健康推進課（健康づくり班） 電話：086-226-7328


 メールマガジンのご案内

文字サイズ変更 | 元に戻す | 大きくする | 文字色変更 / 音声読み上げ
 ※パソコン環境により変更できない場合があります。

岡山がんサポート情報トップ




岡山がんサポート情報は、岡山県のがん情報を発信するサポートサイトです。

▶ がんかな？と思ったら

▶ がんの相談をしたい

▶ がん検診を受けたい

がんに関する知識 

- ▶ 岡山県のがんの現状
- ▶ がん予防
- ▶ がん検診
- ▶ 各種がんの解説
- ▶ 検診機関
- ▶ 行政機関（国・県・保健所・市町村）及び関係団体

緩和・緩和ケアに関する情報 

- ▶ がん医療
- ▶ がん診療連携拠点病院
- ▶ 緩和ケア
- ▶ 緩和ケア研修会
- ▶ 緩和ケア研修会修了者
- ▶ 緩和ケア病棟がある病院

がん相談に関する情報 

- ▶ がん相談支援センター
- ▶ 民間団体の相談窓口

セミナー、研修の情報 

- ▶ 患者団体等が主催する研修会等（EXCELファイル）
- ▶ 岡山県が主催・後援等する研修会等（EXCELファイル）
- ▶ 国立がん研究センターが主催する研修会

患者団体に関する情報 

- ▶ 患者団体一覧
- ▶ 患者団体等が主催する研修会等（EXCELファイル）

療養支援に関する情報 

- ▶ 患者必携

岡山県の取り組み 

- ▶ 岡山県がん対策推進計画
- ▶ 健康おかやま21
- ▶ たばこ対策に関する情報
- ▶ 肝臓対策

統計情報 

- ▶ 岡山県がん登録事業
- ▶ 岡山県がん精密検診結果収集事業
- ▶ 岡山県の成人保健

リンク集 

- ▶ 岡山県がん診療連携協議会
- ▶ がん診療連携拠点病院
- ▶ おかやま医療情報ネット
- ▶ 岡山県医師会

(5) 研究

(分野別目標)

がんに関する研究を支援し、より良い保健医療体制を構築する。

ア 院内がん登録

(個別目標)

平成 24 年度末までに、すべてのがん診療拠点病院において、院内がん登録の実務を担う者が、必要な研修を修了し、院内がん登録が高い精度で円滑に運用されることを目指す。

(進捗状況)

すべてのがん診療連携拠点病院の院内がん登録については、国立がん研究センター主催の研修会を受講した実務者を配置して行っている。

院内がん登録のデータは、国立がん研究センターにおいて集計され、その集計結果については、同センターホームページで公表されている。

院内がん登録の登録件数

院内がん登録数	2007年登録数	2008年登録数
全国	327,890	428,196
岡山県	6,300	10,368

資料：国立がん研究センターがん対策情報センター「がん診療連携拠点病院内がん登録全国集計」

イ 地域がん登録

(個別目標)

標準化データベースシステムを導入するとともに、DCO ≤ 15%、DCN ≤ 25%を維持する。がん登録集計結果を公開し、活用を促進する。

(進捗状況)

本県の地域がん登録については、県内の医療機関からの協力を得ながら罹患状況等の把握を行っており、2007年データのDCO割合は5.9%、DCN割合は19.8%と精度の高いがん登録を維持している。

この事業は、平成22年度までは岡山県医師会に委託して行っていたが、今年度から岡山大学病院に委託変更した。

がん登録集計結果については、県ホームページ上で公開している。

DCN割合、DCO割合の推移

データ年	届出による登録数	DCO割合	DCN割合
2003年 <small>(計画策定時)</small>	9,439	7.3%	16.9%
2004年	9,040	7.9%	19.3%
2005年	9,355	7.5%	20.1%
2006年	8,985	8.7%	20.3%
2007年	10,291	5.9%	19.8%

資料：岡山県におけるがん登録2007

(参考)

地域がん登録は、岡山県内の居住者に発生したすべてのがんの罹患を把握する。がん登録の精度は、DCOとDCNの値が小さいほど精度が高い。

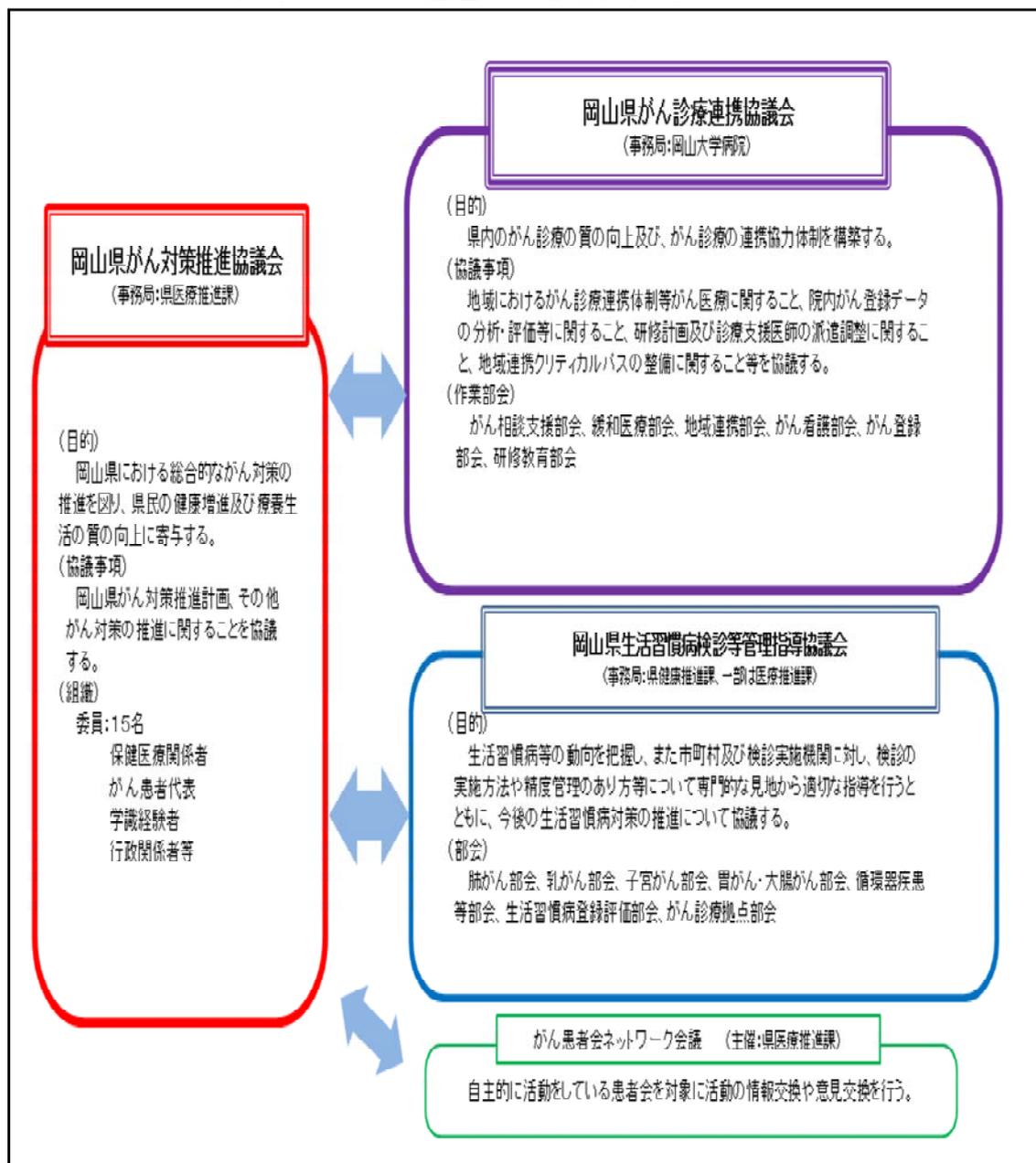
DCN割合とは、死亡票で初めて登録された人の割合

DCO割合とは、死亡票で初めて登録し遡り調査したが詳細が不明な割合

4 岡山県がん対策推進協議会

岡山県がん対策推進協議会は、今年度新たに設置した協議会で、岡山県がん対策推進計画に係る協議等を行い、岡山県がん診療連携協議会、岡山県生活習慣病等管理指導協議会、関係機関と相互に連携しながら、総合的ながん対策を推進していく。

岡山県がん対策推進に係る協議会等の体制



岡山県保健福祉部医療推進課

電話086-226-7321 FAX086-224-2313

岡山県保健福祉部健康推進課

電話086-226-7328 FAX086-225-7283